



太田紙販売

日本酒とCNF「灌澤ハンドクリーム」の相乗効果
初回ロット完全で追加生産決定

太田紙販売(株) (東京都台東区、灌澤寛美社長) が昨年十二月十二日に発売した新商品「灌澤ハンドクリーム」(三〇gチューブ容器入り)の売れ行きが好調だ。初回ロット五〇〇本が、発売後、二週間で完売となった。

長野県上田市の純米吟醸

「酒」を主成分に、日本製紙のCNF(セルロースナノファイバー)セレンピアを配合したハンドクリームで、高い保湿効果を現している。

使用後の感想では「伸ばしやすい、べたつかない、肌がつやつやになる」「肌に浸みこんでくる感じがする、保湿性が長持ちする」「麴の香りにナチュラル感がある」「お値段以上の価値がある」「容器、紙箱や説明書のデザインは、シンプルだがおしゃれ」等、日

本酒とセレンピアの相乗効果に関わるものが多く、好評価を得ている。

また、「初めてCNF入り製品を使うことが出来た」「手指用だけでなく、フェイスクリームとしても使用している」との声も届いている。

次の予約オーダーも入り、第二回生産の準備を開始した。チューブ容器の調達に時間を要するが、次の生産は、三月中旬を目標としている。

今後、丸紅フォレストリンクス(株) (千代田区、大日方直樹社長)、日本製紙グループの桜井(株) (台東区、

佐瀬和彦社長)、日本紙通商(株) (千代田区、吉田太社長) の各ECサイト、ネットショップを通じてユーザーへの販売を継続していく。

店頭では、信州銘醸(長野県上田市、灌澤恭次社長)と紙の博物館(東京都北区) ミュージアムショップで販売を継続する。

海外では日本製の発酵製品の人気が高く、新発売以降、海外向けの引合いも増えている。

太田紙販売では「新素材CNFセレンピアを配合した化粧品の良さを、更に幅広い皆様に体感していただきたい」としている。